

～今、市民の森では！～



作成:NPO 法人 八ヶ岳森林文化の会 森林観察学習部会
(Tel: 0266-75-1772 Mail: shinrin_bunka@yahoo.co.jp)
掲示許可:茅野市 環境課 環境保全係

そのメンバーから市民の森を散策される皆さんへ、メッセージをお届けします。市民の森の現在の様子(咲いている花、飛んでいる蝶など)をお伝えしますので、ご参考に、気持ちの良い散策をお楽しみください。月例観察会は、1回参加も受け付けております。
お問い合わせは 75-1772.

記号の説明:
①xx:ガイドブック「市民の森に集う」xxページ参照
②xx:ガイドブック2「森を楽しむ」xxページ参照

茅野市 市民の森ガイドブック「市民の森に集う」
(新書版144ページ)は茅野市役所 環境課 環境保全係で無料配布しております。是非、散策のお供に！

茅野市 市民の森ガイドブック2「森を楽しむ」は、2017年3月に発行し、只今、300円で販売中。
《取扱所》 茅野市尖石縄文考古館 売店
茅野市北山 カフェ 午後の森
《問合せ》 NPO 法人 八ヶ岳森林文化の会
☎: 0266- 75-1772

暑さを避けて (悦)
連日、暑い日が続くので、第一駐車場→沢沿いの小径→野鳥の小径少々→南コース少々→第一駐車場という経路で巡り、午前中のみとしました。解散後昼食をのんびり食べながらオオムラサキが飛ぶのを数名で待ち、オオムラサキ♀が飛ぶのを見れました。前回野鳥の小径で観察したスミナガシの幼虫は行方不明でしたが、南コースの満開だったオオバアサガラの変わった果実を観察することができました。その時葉の陰のカミキリを捕獲して見たら、なんとルリボシカミキリでした。なんと、ラッキーでした。写真は第一駐車場に掛けたトラップの説明中。



ミドリヒメザゼンソウ(サトイモ科) (矢)
枯葉に埋もれた小さなミドリヒメザゼンソウの花を観察する参加者の熱心な姿に感動。本人(ミドリヒメザゼンソウ)はさぞビックリでしょうねー！

不明昆虫 (ワ)
はてな1
はてな2
はてな1:ハスオビヒゲナガカミキリ (口)調べ
はてな2:アヤヘリハネナガウンカ (悦)調べ



ドクダミ GB①95 (悦)
花弁に見えるのは→総苞片
花弁の無い雄しべと雌しべだけの花が多数ついている。
雄しべは3個、雌しべは花柱が3裂する。
匂いはどこから？ →葉の腺点
冷蔵庫、生ごみの消臭に良いらしい。
ゲンショウコ、センブリとともに日本の三大民間薬の1つとされる。



- 7月観察した花** (悦)
- ✿ ムラサキシキブ①93
 - ✿ オニルリソウ①91
 - ✿ ダイコンソウ①86
 - ✿ キツネノボタン①87
 - ✿ ニガナ①87
 - ✿ サワギク①87
 - ✿ ミドリヒメザゼンソウ②83
 - ✿ ドクダミ①95
 - ✿ イケマ①93
 - ✿ オオヤマサギソウ①94
 - ✿ ハルジオン②83
 - ✿ ヤマアジサイ①89
 - ✿ オオトラノオ①95
 - ✿ テリハノイバラ①85
- 7月観察した果実**
- ✿ ツツハシバミ①67
 - ✿ アケビ②72
 - ✿ クモキリソウ①94
 - ✿ オオバコ
 - ✿ カラコギカエデ①132
 - ✿ マタタビ②83
 - ✿ オオバアサガラ①130
 - ✿ ニガイチゴ①72

ダイコンソウとキツネノボタン GB①86 GB②87 (悦)

ダイコンソウ
バラ科
毬栗坊主みたい👉

キツネノボタン
キンボウゲ科
金平糖みたい👉



イケマに群がる虫たち (悦)

ジュウジナガカメムシ GB②130

ヨツスジハナカミキリ GB②123



7月観察したムシ達 (馬)
追加(悦)(口)

<蝶>

- オオムラサキ♂ ♀不明②114
- アサギマダラ前蛹②117
- イチモンジチョウ②114

<ガ>

- ヤママコ終齢幼虫
- シマカラスヨウ
- ウメエダジャク
- ノンネマイマイ
- ミスジビロードスズメ幼虫
- ヨツボシホソバ幼虫

<トンボ>

- オニヤンマ♂②127
- ハネビロエゾトンボ？
- オオシオカラトンボ♀②128
- ヒメアカネがマイコアカネ②121

<セミ>

- セミ脱け殻:エゾゼミ・ヒグラシ・エゾハルゼミ②129



鳴声:エゾゼミ
<甲虫>

- ルリボシカミキリ②124
- ヨツスジハナカミキリ②123
- ハスオビヒゲナガカミキリ

<カメムシ>

- アヤヘリハネナガウンカ

<その他の昆虫>

- 蟻地獄(ウスバカゲロウ)
- フタスジモンカゲロウ

<甲殻類>

- サワガニ

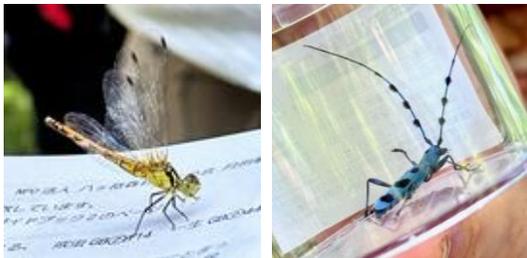
コシロカネグモ(アシナガグモ科) (矢)
コナラの葉をめくっていると、銀色に輝くクモを発見！
林内、林縁などの薄暗い環境に生息するコシロカネグモのメスのようです。
その美しさに見とれていると、「失礼ね！」と、サッと木陰に隠れてしまった。



トンボの誤解 (珠)

シオカラトンボとムギワラトンボは同じだと教えていただき、びっくり。

調べると、成虫になりたての頃はオスもメスは黄色っぽく、老熟するとオスは胴体に塩のような白い粉で覆われることからシオカラトンボ、メスは麦のような黄色のままであることからムギワラトンボと呼ばれるそうです。図鑑には複眼はオスもメスも青色か緑色とありましたが、成虫になりたての若い頃は茶褐色の個体もあるそうで、これは、若いオスなのか？もしくはメスなのか？次は童謡の歌詞のような「みずいろメガネ」を探してみたいものです。ルリボシカミキリにも会えました。



アサギマダラ (桂)



念願のアサギマダラの幼虫(前蛹)を見つけてもらいました！感激です。目印はイケマの葉に直径1cm位の丸い穴、不思議ですね。孵化して小さいうちは葉裏に丸い線状に薄く齧って傷をつけ、その円の中側を食べるので丸い穴が出来るといことです。それと、あの小さな穴だけで成長できるのかしら？疑問だらけです。ネットで調べると、ある程度大きくなると葉の縁からも食べるようです。そういうば、そんな食痕もありましたね。

アサギマダラに会いたかった！ (洋)

●道中で蛹は観察できた。あと何日位で羽化するのかな？無事成虫になったらどこまで旅するの？春には卵を産みに帰ってきてくれるかなあ。
●触れなくなるようなヤママユの幼虫を観察できた。繭から薄い緑色の生糸がとれるとのこと。観察会に参加して、その存在を知った。

中学受験問題 (新)

今回は、完全変態と不完全変態という言葉を知りました。観察会では、何度も説明を受けていると、私の頭に残ってくれました。今までは、「いも虫、毛虫、きゃー」というような状態でしたが、観察会に参加してからは、「このいも虫の色が綺麗、毛虫の毛の出し方すごい！」など、じっくり観ることが増えました。幼虫の目や口や模様などから、しっかりと生きているその姿は美しく感動の時間でした。完全変態と不完全変態は中学受験に出るとのこと。小学生の理科で習うんですね。よかった、取り戻せた。



後日談 (悦)

7月22日トイレ掃除に行った時「幼虫は？」と覗いてみると、ピカピカの蛹になっていました。4日で蛹になった。これから約2週間の間、噛む口からストローの口に、翅も作って変身します。



森の中での出会い数々 (山2)

●アブラチャンの実が沢山出来ていました。その可愛い名前と黄色い花、今回は沢山の丸い実を幹にいっぱいつけていました。昔はこの実から油を採ったと聞きアブラチャンの名前に納得。たわわにつけた実は今でも美味しい油(?)が採れそう。
●またたびは今回は実をつけ、本当のまたたびの実釣鐘状でむしこぶは丸い形。どちらも焼酎につけてまたたび酒になるらしい。ねこちゃんはこちらがお好きなのかしら？
●トンボやヤママユの幼虫、アサギマダラの幼虫にも会いました。



こんにちは (森)

毎回楽しみにしている観察会、今回も初めてが、一杯ありました。

その1 アリ地獄

今まで、ずっとアリの巣だと思っていたのに、ウスバカゲロウが、餌を捕まえるために作ったものだったとは！



その2 ヤママユの幼虫

何回指さされても分からなくどこ？どこ？



やっと見つけたヤママユぶくぶくして、おおきくてコナラの葉と一体になって貼り付いていた...

その3 コブシの実

白い花は知っていたけど青い実を見たのは初めてなるほど、まるで拳を握ったような形をしているそれでコブシカ...



他にも ホオジロに出会えたり、美しいルリボシカミキリを観察できたり、楽しい観察会でした。

ルリボシカミキリの青 (悦)

生物学者の福岡伸一氏は大のフェルメール好きで知られています。その彼が「ルリボシカミキリの青」というタイトルのエッセイ集の中で、フェルメールブルー*も及ばないとルリボシカミキリを絶賛しています。その絶賛ぶりを紹介します。



※:フェルメールの「真珠の耳飾りの少女」がまいているターバンの色。

でも、福岡ハカセがもっともあこがれた青は、空の青さでもなく、海の青さでもなかった。フェルメールブルーでもない。それはルリボシカミキリの青だった。ピロードのような輝きをたたえた深い青。それは塗られた青ではなく、金属のように内部から放たれる青。こんな青は、フェルメールだってつくりだすことができない。その上に、くっきりとした漆黒の斑紋が散っている。長く優美に伸びる触角。そこにも青と黒が交互におかれている。あきるほど図鑑を眺め、ずっと恋い焦がれた。一度でいいから実物がみたい。何日も、何シーズンも、野山をさまよった。しかしこの小さなカミキリムシを採集することはできなかった。

(中略 ある年の夏に出会ったところから) 嘘だと思えた。しかしその青は息がとまるほど美しかった。しかも、見る角度によって青はさざ波のように淡く濃く変化する。それは福岡ハカセがハカセになるまえの、まぎれもないセンス・オブ・ワンダーの瞬間だった。

こんな青さがなぜこの世界に存在しているのだろう。

そんなルリボシカミキリに我々は出会ったのですよ！しかし、そんな青をじっくり鑑賞する暇はありませんでした。残念。

ヤママユ (吉)

まるで、うぐいす餡子か抹茶寒天か？和菓子も旬の季節を大切に使うが、このヤママユも旬の時期にしか見られない。先人は、自然のこんな一瞬を見逃さなかったようです。

ケムシ・イモムシ・ガ (口)

●車を止めた所にノネマイマイ(ドウガ科)。



●第一駐車場を下り、橋を渡ったコナラの木にヤママユの幼虫(ヤママユガ科)透けるような翡翠色、繭を作るのは近そうです。

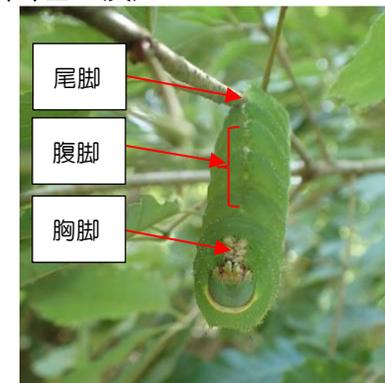
●小さめのミスジピロードスズメ幼虫(スズメガ科)眼球紋でアピールしています。カメラを向けたらシャッターチャンスに協力、方向を直してくれたシマカラスヨトウ(ヤガ科)。

●「ここにいるよ」、「どこどこ」の会話、保護色と思われるヨシボシソバ幼虫(ヒトリガ科)。



半日の観察会、これだけの種類(科)のガに出会いました。

ヤママユ (矢)



胸脚を胸の前で合わせ、腹脚の最後尾と尾脚でコナラの小枝につかまりぶら下がる姿は、蛹になる準備なのでしょうか？その姿は可愛くもあり敵かでもあります。

観察会に参加して3回目の夏 (直)

大きさに度肝を抜かれ、私には一定距離が必要ですが、その容姿と動きにはおっとり優しい感じが伝わってきました。来年、この距離は縮まるか...